

## 都市美運動

シウィックアートの都市計画史

中島 直人(著)

西欧の歴史都市と比べると、日本の都市はお世辞にも美しいとは言いがたい。看板など屋外広告物の雑多さ、宙を走る電線の醜さは、誰もが指摘するところだ。

原点は、都市計画法が制定された1919年にさかのぼる。その第1条で「交通、衛生、保安、経済等」の観点が強調された。そもそも日本の都市計画にあって「美」とは「等」の文字に収まる副次的な課題にすぎなかったのだ。

しかし同じ時期に欧米のシビックアート思想を紹介、ひいては「都市美」を啓蒙する運動がまきおこった点が注目



### 美の観点から都市計画を語り直す

されている。昨年末から、酒井憲一『都市美協会運動と椽内吉胤』(東京農業大学出版会)、中島直人ほか『都市計画家石川栄輝 都市探求の軌跡』(鹿島出版会)など、都市美運動の中核にいた専門家を再評価する研究書があいついで刊行された。美観への関心が、わが国でも、ようやくたかまりつつあるのだろう。

都市美協会など諸団体の組織と運動に着目、その草創と頓挫にいたる顛末を検証することで、「美」の観点から日本の都市計画を語り直そうとする本書も、問題意識を共有するところだ。今後、日本独自の「都市美」を獲得するためには、草の根の市民運動の広範な広がり、粘り強い継続が不可欠であることを本書から学んだ。

橋爪紳也(建築史家)

東京大学出版会・8820円